

勝央町スポーツ・文化活動地域展開協議会

作成日：2026年7月23日

作成者：勝央町教育委員会

会議名称	令和8年度第4回勝央町スポーツ・文化活動地域展開協議会
開催日時	2026年7月22日(水曜日) 19:00 ~ 21:35
出席者 (敬称略)	石原悦子(勝央町スポーツ協会)、北池龍一(勝央町健康スポーツクラブ)、 植月重幸(勝央町スポーツ少年団)、河上 理枝(勝央町文化協会)、谷口浩子 (勝央町社会教育委員会)、中村安奈(勝央町教育委員会)、國政敏明(公益財団 法人 金太郎スポーツ振興財団)、本行才泰(勝央町 PTA 連合会)、浦島毅(勝 央中学校)、氏平遼(勝央中学校)、下山静之(勝央町議会)、井上 高志(一般社 団法人しょうおう志援協会) 事務局:勝央町教育委員会5名

協議内容(総括)▼

本会議では、主に、認定地域クラブに関わる報告事項、今後の認定審査会の運営方針、交付金のあり方、そして生徒を対象としたアンケート調査結果の共有と分析を行いました。

特に、認定審査会の新設、申請・審査スケジュールの明確化、交付金の交付方法、そして子どもたちの活動ニーズの細かな把握について議論が深まりました。

参加者からは、制度運用への懸念や今後の課題点の指摘もあり、現場の実情に即した柔軟な対応が求められるとともに、子供や保護者の声を取り入れた支援体制の構築の必要性が改めて認識されました。

報告事項 教育委員会の説明と質疑応答▼

教育委員会から、団体募集の予定と7月に実施された各種説明会の概要報告を行いました。

活動時間に関する整理事項についても具体的に言及しました。週11時間を目安としつつ、大会日等の例外もあること、移動時間は活動時間に含めないことなど、制度の柔軟な運用方針を提示しました。また、指導者については、無償ボランティアとしての活動も否定しない一方で、働き方改革の観点から適正な謝金支払いと指導者としての登録について、将来的な実現が求められていることを共有しました。

質疑応答では、指導者への周知徹底や具体的なスケジュール調整、活動時間計算の抜け道防止に関する懸念が共有され、制度の健全な運用に向けた課題も浮き彫りになりました。

認定審査会のあり方 事務局案の説明と協議▼

認定審査会の運営に向け、事務局から具体的な審査体制案が提示しました。

申請書類はすでにホームページで公開されており、8月から審査が始まる見込みです。審査は一次(書類)と二次(審査会)に分かれ、二次審査には協議会メンバーから選出された外部識者4名を交え、迅速かつ適正に審査を進める方針を示しました。

審査会の開催頻度は、最初の1年半程度は毎月審査会を行い、その後は申請状況に応じて徐々に2ヶ月に1回や年2回の開催に切り替える案を説明しました。また審査会は協議会終了後に開催し、その場で認定の決定権を付与する形を提案しました。これにより円滑かつ効率的な運営を目指しています。

参加者からは審査会構成メンバーの妥当性やスケジュールの柔軟な対応について了承が得られました。なお、事務局での書類チェック等が間に合う範囲であるならば、最初の8月受付分に限り、10日の期日を過ぎてもギリギリまで臨機応変に受け付けるという、柔軟な裁量で対応することが確認され、事務局案の通りに進めることで合意に達しました。

交付金のあり方についての説明と意見交換▼

事務局から、認定地域クラブに対する交付金支給の検討段階の案を説明しました。交付金は団体向けの活動助成金と、保護者の経済的負担軽減を目的とした個人向けの支援に分けられる予定です。団体向け助成金は、年間活動日数に応じた一律固定額と、参加中学生数に応じた割合額(上限)を組み合わせた方式で検討しています。

一律交付金は領収書提出不要で自由に使い、人数割額は実費に基づき領収書等の管理が必要となる方向です。また、活動頻度が年間12回未満の団体は対象外とし、活動日数が多い団体には相応の支援額を確保する方針です。

質疑応答では、交付金の運用に伴う書類事務の負担や補助額の妥当性、スポーツ少年団との補助金の整合性に関する関心が示されました。重複受給防止や活動実績の正確な把握に向けた工夫の必要性も指摘され、自由度と適正管理の両立について検討が求められました。

生徒向けアンケート分析結果の説明▼

生徒たちの本音や実際のニーズを正確に把握するため、7 月上旬に勝央中学校の生徒を対象とした匿名の Web フォームによるアンケート調査が実施しました。

町内の中学生在籍者 300 人余りのうち、有効回答数は 250 件に達し、回答率は 85% を超えました。今回のアンケート分析にあたっては、実施当事者である教育委員会が自らデータを読み解くと、どうしても自分たちの都合の良いように解釈してしまう「偏り(バイアス)」が生じる恐れがあるため、客観性と公平性を担保する目的から、集計及び分析を外部委託し、データに基づいたプロの立場から読み解きが行われました。アンケートは全 9 問で構成され、最後の 9 問目は自由記述形式となっています。

回答者の男女比には大きな差はなく、現在の所属ではソフトテニス部などが多数を占める一方、部活動に所属していない生徒も 42 名含まれていました。

「新しくやってみたい活動(複数回答、選択肢は 50 種以上)」を尋ねたところ、最も回答が多かったのはバドミントン(27%)でした。現在の学校の部活動にはない種目ですが、中学生の間で非常に高い需要があることが浮き彫りになりました。

その他にも、パソコン・プログラミング、ダンス、ピアノ、陸上競技、茶道、空手、和太鼓など、スポーツ系から文化系まで多種多様な活動に対する興味が具体的に挙がってきました。

地域クラブへ参加意向としては、回答者の 70.8%が「内容や空き時間によっては参加してみたい」と前向きに回答しており、新しい試みに対する生徒たちの期待の高さが伺えます。

活動を希望する曜日についての質問では、

- ・平日のみ活動したい: 約半数(48%)
- ・平日も休日も活動したい: 次点に多い
- ・休日だけ活動したい: 最も少ない

この結果から、「休日は自分の自由な時間として確保し、学校がある平日の放課後に活動したい」というニーズが根強いことが分かります。

また、学校が終わってからクラブが始まるまでの「待機時間の過ごし方(複数回答)」については、72%の生徒が「一度家に帰って、準備をしてからクラブに行きたい」と答えました。

一方で、29%(約 3 割)の生徒は「学校内のスペースでそのまま待機したい」という希望を持っており、自力での帰宅や送迎が難しい家庭環境などを考慮すると、学校内の待機スペースの確保は具体的に検討する価値が非常に高いという分析結果が出ています。

また、学年や性別を掛け合わせた「クロス集計」を行うことで、さらに細かい生徒の心理が見えてきました。

学年別の傾向

学年が若い(1 年生)ほど地域クラブへの参加意欲が最も高く、学年が上がるにつれて意欲が下がる傾向が見られました。これは 3 年生が受験期に入ることや、部活動を引退するなどの過渡期にあることが要因と考えられます。

性別別の傾向

女子生徒については、クラブ活動に全ての時間を費やすよりも、「塾や習い事に行きたい」「家に帰って友達と遊びたい」といった、自分自身のプライベートな時間を大切にしたいという意見が中心に多く見られました。

未所属層の動向

現在の学校部活動に入っていない 42 名の生徒のうち、約半数が「地域クラブであるならば、何らかの活動に参加してみたい」と回答しました。学校の部活動という既存の枠組みでは拾いきれなかった生徒の受け皿として、地域クラブが非常に有効に機能する可能性を示すデータです。

休日の地域移行の優先種目

現在の部活動ごとの休日ニーズを分析したところ、吹奏楽部、ソフトテニス部、軟式野球部に所属している生徒は「休日も活動したい」と答えた割合が非常に高く（吹奏楽部は 69%）、これらの部活から優先的に休日の地域クラブへの移行を進めるべきだという具体的な提案がなされました。

■自由記述のテキスト分析

最後の自由記述に書かれた言葉を、キーワードの出現頻度で分析しました。出現回数が多かったのは「クラブ」のほかに、「友達」「楽しく」「楽しい」「勉強」「場所」といった言葉です。

一方で、保護者が強く懸念しているような「お金(費用)」に関するキーワードは、生徒の言葉からは出てきませんでした。

生徒たちの原文のニュアンスをそのまま大別すると、彼らが地域クラブに求めているのは、競争や技術の向上(競技性の追求)だけではないことが分かります。

もちろん「ちゃんとした指導者のもとで上手になりたい」、「今の活動をそのまま続けたい」という意見もありましたが、それ以上に「友達と楽しくおしゃべりができる場所」、「静かに自習や勉強ができる場所」、「緩く楽しく過ごせる居心地の良い空間」を求めている声が多数を占めました。

分析委託先からの結論として、勝央町がこれからつくる地域クラブは、単一の形を目指すのではなく、以下の 3 つのプラン(考え方)を並立して用意していくべきだと提案されました。

競技追求型: 専門的な指導のもとで技術を磨くクラブ

エンジョイ型: 多様な体験をみんなで緩く楽しむクラブ

居場所型(サードプレイス): 図書館の開放や公民館などの地域の社会資源と協働し、子供たちが強制されずに自由に参加し、途中で抜けることもできるような安心の居場所の検討

委員からは、「生徒が『場所』や『居場所』という言葉をよく使っているが、それは子供たち

だけで過ごしたい空間なのか、それとも大人の見守りや指導を必要としているものなのか、子供たちの本当の心理を見極めてプランを立てる必要がある」といった、今後の運営に向けた疑問が示されました。

また、参加者からはアンケート結果への分析補足や活用方法について意見が交わされました。未回答者の取り扱いや、小学生含む広範な生徒層への調査の必要性、送迎面の課題、居場所や活動の多様性確保、認定クラブの立ち上げや運営における困難点が指摘されました。

また、活動時間管理の課題や複数クラブの兼務による体制整備の必要性も話題となりました。

これらを踏まえ、今後の協議会では更なるアンケート結果の精査や放課後の居場所環境の整備、小学生を対象としたアンケートの検討、支援体制の整備、地域資源活用等をテーマに議論を進めていく方針が確認されました。

その他報告・質疑と次回以降のスケジュール▼

最後に、各団体の現在の動向報告や指導者向け説明会の開催予定等について連絡しました。

次回以降の予定

8月31日(月) 19:00～ 第5回開催

9月28日(月) 19:00～ 第6回開催

10月29日(木) 19:00～ 第7回開催